

パックごはん（無菌包装米飯） 輸出拡大による米の新たな需要に応じた生産体制の確立

株式会社ウーケ：R5～R6

ポイント

- 国内外で拡大しているパックごはん需要に対応するため、富山県に輸出対応可能な加工施設を整備するとともに、パックごはんに適した低コスト生産体制を構築。
- 新施設の整備により、パックごはんの供給力を増強し、米需要の拡大(2,916トン)と輸出向け製品の増産(620万食)を実現(令和9年度目標)。

取組内容

【生産安定効率化】

- ・ 富山県やJA等と連携し、高温耐性品種への転換や高温障害回避技術の導入に取り組む。
- ・ 米生産のコスト低減に向け、密苗移植、ドローン防除拡大や施肥体系の見直しにより米生産費低減策を推進。

【供給調整】

- ・ パックごはん年間生産量のほとんどが国内向けであり、海外向けパックごはんの製造能力が不足。
- ・ 加工施設を新設し、海外向け生産の拡大を実施。

【実需者ニーズ対応】

- ・ 災害対応や食ロスの観点等から需要が高まり、パックごはんの安定供給体制を整備するとともに、(株)神明や海外連携者と連携して海外ニーズを把握し、海外需要の高まりに対応。

支援内容

- ・ 富山県入善町下飯野地区に農産物処理加工施設の整備
生産量:2,916玄米トン／年
出荷量:3,069万食／年

主な成果

加工施設の新設により新市場（海外市場）向けや災害対応などの需要が拡大するパックごはんに対応し、生産地の所得確保が図られる。

- ・ 新工場の整備により、輸出向けパックごはんの生産量が0食から620万食へ拡大。
- ・ 製品在庫量が160万食増加するため、災害時等の緊急出荷対応可能量が増加。
- ・ 高温耐性品種の導入等により単収や等級下げによる米農家所得への影響を極力回避し、生産者所得の安定・向上が実現。（いずれもR4→R9の変化）



実施体制

【拠点事業者】

全農富山
県本部

【連携者】

みな穂農協
新潟市農協

【拠点事業者】

(株)ウーケ
農産物処理
加工施設

【拠点事業者】

(株)神明

【連携者】

神明亜州有限公司
成都栄町食品有限公司

凡例

	生産安定効率化
	供給調整
	実需者ニーズ対応